

第30回みんなのタウンミーティング会議報告

- 1 開催日時 令和7年6月23日（月） 午後7時00分～8時30分
- 2 開催場所 オンライン
- 3 参加者 市長及び市民3名
- 4 会議次第
 - (1) 開会
 - (2) 市長あいさつ（市政報告）
 - (3) 懇談（フリーテーマ）
 - (4) 閉会

5 懇談内容要旨

	件名	ご意見・ご要望等	市長からの回答等
1	新庁舎・（仮称）新福祉会館建設について	新しい市庁舎に関してですが、まだ発注するまでに紆余曲折があると思いますし、まだ先のことという感じはしますが、できてしまってからではどうにもならないので、今のうちに、ぜひお伝えしたいことと、質問したいことがあります。 諸々の物価高騰の中、これから発注までに色々な選択をしなければならないことがあると思います。その辺は非常に大変だと思っており、市の方に少し同情するところもありますが、難しいことはわかりませんので、ただ、市の方にお伝えいたします。 おそらくプロポーザルを経て、こういった提案をしたところに発注したわけですが、基本的な方針というのは間違っていないと思います。 費用のことも含め色々大変なことになっていますので、これから妥結して、実施して、工事をして、竣工するまで、まだ非常に多難だとは思いますが、その過程で、プロポーザルでどうしてこういう市庁舎を望んだのかという、最初の基本的な姿勢、そういうものをしっかりキープしながら、削れるところは削るなり、譲れるところは譲るなりして、具体的に努めていただけたら有難いと思います。 ただ、庁舎のプロポーザルの中に、環境に良いとか地球に優しいというような方向性が示されていて、それはとても素晴らしいと思うんですが、下手をすると、言葉だけ環境に優しいとか、地球に優しいとかというだけで、実際には環境にとってどうなのか、というようなことになりかねないところも少し心配しています。ですので、建物ができてから、できれば特に環境面に関して、本当にプロポーザルで提案した当時のものができたのかどうかということを、しっかり検証してほしいと思っています。それがないと、ただ言葉だけ環境に優しいとか地球に優しいとかというだけで、具体的にはどうだったのかということが非常に曖昧なまま、不十分ながら納得せざるを得ないようなことになりかねないと思います。 検証と言いましたが、プロポーザルに提案したとおりに動いていなくても、その犯人探しをするということではなく、どこがどうしてうまくいっていないのかという原因をしっかりと見極めて、それを改善するための方策をしっかりと作っておいてほしいということです。 だから、例えば環境といいますか、建物内部の気温とか、湿度とか、空気の流れとか、そういったものは、現在、割と簡単に検証できる仕組みが	非常に重要なご意見をいただいたと思っています。 私が市長になって2年半ですが、それ以前からも、まずどう建てるか、本当に建てるのかというところで、工事予算をとるまでに紆余曲折してきた経過がありますので、今、仰られたような運用の部分について、どこまで想定できているかというのは、担当に確認しないとわからないところはあると思いますが、想定していた効果を、環境に優しいという点においてどう実践するのかということと、実際に効果が出ているのかをどのように検証するのか、こういったことについては、しっかりとそうできるように、改めて今後の運用の仕方を含めて確認していきたいと思っています。

		できていると思います。もちろん検証するに当たってとても費用がかかったり、人手がかかったりということであれば、それは難しいと思うんですが、今、これだけコンピュータなどが普及している時代ですので、色々な建物の内部、外部、各所に、例えば気温と湿度をいつでも測ってくれるようなセンサーを設置しておくとか、それで、そのデータを逐次、例えば1時間ごとに各所のデータを取るとか、そういうことは人がついていなくても、コンピュータ操作をすれば、そういったデータを蓄積することは可能だと思います。 どんなに良い設計であれ、どんなに良い工事をしたところでも、やっぱり使ってみるとうまくいっていないというところが、必ずといっていいほど起こってきますので、そのギャップが生じた時に、そういうことをベースにしてきちんと把握して、どうしたらそれを是正していけるかという仕組みを事前に作っていくということが、とても大事じゃないかと思います。できればそういった仕組みから、どうやって良い運営の仕方を導いていくかということも、なるべく公開していただければ、市民もみんなが誇りをもって、新しい市庁舎が本当に環境に良い建物になっているんだな、この物価が高騰して大変な状況の中でも、良い判断をしてこの建物を作ってくれたんだな、新しい建物ができて良かった、ということになると思います。おそらく100億近いお金をかけて 何十年、できれば100年くらい先まで使うようなことを見越した建物でしょうから、市民一人ひとりが誇りをもてるような建物と運営形態にしていけたらと思います。	
2	学校や公共施設の防犯強化について	最近、強盗事件のような、色々と物騒な事件があったということを、ニュースなどで聞いています。先ほどお話いただきました、住宅のセキュリティ対策に対する補助金は、セキュリティを重視して住宅に防犯機器をつけるということに繋がり、非常に良いと思いました。 最近、不審者のような人物が現れたというのを近くの中学校で聞きました。そこで、学校や公共の施設になどにも、やはりセキュリティ面を重視した機械というか、設備を付けたほうが良いのではないのでしょうか。 小金井市は比較的治安が良いほうですが、最近、治安が悪いというか、少し物騒な事件が起こっています。そこを改善するにはどうしたら良いかということを、友人や家族に聞いてみたところ、家族は、パチンコ店が少ないことが治安の良さに繋がるということと、小金井市にはファミリー層が多いので、平和なまちにしたいと言っていました。そういったところは、市に助けてもらいたいと思います。	仰られたように、実は、学校のセキュリティには、まだまだ課題があるというのが現状です。 立川市でも学校での暴力事件がありましたが、あの事件は、結果として保護者と保護者の知人が一緒に学校に来て起きたことでした。保護者も含めて完全に出入りを無くすということは非常に難しいことですので、簡単にはいかないところではありますが、不審者が入ってこれないようにするためにはどうするかということは、考えなければなりません。学校は出入口がたくさんありますから、学校の特性を見極めながら、できることから考えていこうという話をしているところです。 それと併せて、地域全体をできるだけ安心安全な地域にしていくということもまた、一番重要なことだと思っています。そのためには、防犯カメラのような機械を設置することによって、犯罪などを防止するという機能を期待する部分と、もう一つは、やはり見守りの体制だと思っていて、人がいるところにはなかなか犯罪は起きにくいという当たり前の話ではありますが、不審者がいた時に、声を掛け合ったり、助け合ったり、誰かを呼ぶというような地域の力というものを、改めてどう強化していくかということが課題だと考えています。 全国で事件や事故が起ると、小金井市ではどうだろうという話しをしながら、一つ一つ課題を洗い出し、できることから一つ一つ潰していくということを、やっているところです。 子供たちが通う場所である学校については、何よりもやはり安心安全というのがベースにあって、学校に通えるという当たり前の環境がなくならないように、これからも教育委員会と協力して、様々な課題の解決に努めていきたいと思います。

3	不登校支援について	何らかの嫌なことがあったり、いじめがあったりして、不登校になってしまう子が出てくるんだと思います。 不登校の子を、中学校の別室で一人一人に教えてあげることで、みんなが安心して生活できる小学校、中学校になってほしいと思います。そんな悲しいことがある学校なんて、僕も含め、どの子も絶対に嫌だと思いますので、そこは市や教育委員会に改善してほしいと思います。	もしかしたら報道などで色々でご存じかもしれませんが、全国的に、不登校の子どもは右肩上がりが増えており、小金井市でも、不登校になる子は比較的增加えている傾向であることも間違いありません。ここで大切なのは、様々な理由があって学校に通えない、行けないという子がいたときに、学校に行けなくても「学び」というものを、どう絶やさないようにできるかということだと思っています。そういった多様な学びの環境、教育機会というものをしっかり確保するように、教育の機会確保法という法律もありますが、教室には行けなくても、何とか学校には来ることができる、別の場所で勉強することができる、先ほど説明した補正予算の事業というのはそういうことなんです。そういう場所を作ることによって、そこがあるから学校に来て、自分なりに勉強したり、誰かに教わったりできる、そういう場所を増やしていこうということです。 課題となるのは、やはりそこにも行けない子がいたときにどうするかということです。まだまだ不十分ではありますが、実は、オンラインでコミュニケーションをとって、場合によっては、授業ではなく、何か講座を受けるという学びの空間なども提供したりもします。学びの機会を多様にしっかりと整備することによって、どういう状況であっても学びというものを保障できるようにしようということです。 それから、いじめというのは、とんでもない事でするので、いじめがないまちにはするという、これは確固たる意志を持って教育委員会と連携をしていきたいと思います。
4	新庁舎・(仮称)新福祉会館建設の運営について	市の職員の中にも専門家がたくさんいるのはもちろん分かっていますが、色々な細かいことがあって専門的なことが多すぎるため、市役所を設計するような大きな事務所の人たちと協議すると、そちらの人たちの知識やアイデアがあまりに膨大なので、市は建物のオーナーであり、発注者であるにも関わらず、半分は受け身の感じがしてくるようなところは、あるような気がします。 竣工して、引渡しをされて、それを使おうという段になると、おそらく、1年、2年の間は、建物のメンテナンスがいろいろあるから、設計事務所も工事業者も関わってくれたいと思います。ですが、実際に新しい建物を運営していくのは市の職員なんです。どうやってその新しい施設を運営していくかというのは、職員の能力に関わってくることがかなりあるので、そこは、何か不都合があれば微調整をできるような仕組みを作って、設計事務所や工事業者ともうまく協議をしていってほしいと思います。 設計者には頭に描いた理想的な実像があると思いますが、実際に使ってみると、市の職員が現実と直面することとの間に当然ながらギャップが生じると思います。だから、そういう時になって、何でもかんでも設計事務所や施工業者に頼るというのではなく、市ではこう考えてこう使いたいんだけど、ここをどういうふうにしたらいいか、というようなすり合わせをしていかないと、どうしても、与えられたものをきれいに使っていくという、受け身の体勢になってしまいかねないのではないかなと思うので、ここから先は自分たちがやるんだ、というような気構えのようなものがあると、ありがたいなと思います。	非常に重要な視点で御意見いただいていると思っています。 市役所は人員を減らしてきたところもあり、様々なものを外部委託することを進めてきました。それで懸念となるのは、その分野における専門性というものが、ノウハウとして担保されなくなってきたという部分です。 色々な分野において、それを管理するために必要な知見が疎かになってしまって、任せきりになるということになり、果たしてそれが、市民のための運用になっているかどうかということに、管理する立場として気づかないということになるのが、一番恐ろしいことだと思っています。そういう観点で考えると、単に任せきりにするのではなく、その一つ一つの仕事、例えばどこかに何かを委託するにしても、その責任というものをしっかり行政としても担保しなければならないということだと思っています。 今回、設計については、当然、設計会社に委託してはいますが、併せてコンストラクションマネジメントという第三者の会社にも、その設計に対してのアドバイスをもらえるような形は取ってきました。それも、そこに任せてしまっただけでは結局意味がないので、特に今、庁舎の件だけではなく、学校の建て替えは順番の一つずつやっていかないといけない状況にあり、今後もそういう大きな建物や公共施設を場合によっては複合化するなど、様々な手を加えていくことが予定されていますので、そういう建築に関する市としての知見をどう保っていくのかというのは、この間、課題として捉えており、建築士の団体の方々に相談したり何か連携できないかといった話もさせていただいているところです。 市として責任を持って市民のために運用するものですから、運用内容を想定して、しっかり設計は設計、さらに改めてちょっと気をつけていきたいと思っています。ありがとうございます。